

平成26年度第5回「墨田区子ども・子育て会議」
「学齡ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成26年9月10日(水)午後6時40分～8時35分
会場：興望館

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 学童クラブの量の見込み・補正・確保策について	資料1 資料2 資料3
(2) 専門委員会の進捗状況について	資料4
(3) その他	資料5 資料6

3 次回の予定

日時：平成26年10月9日(木)午後6時30分～8時30分
会場：すみだリバーサイドホール会議室
主な議題：次世代育成支援行動計画の骨子案についてほか

4 閉会

配布資料

- 資料1 量の見込みと確保策の検討(量の見込みの補正検討)＜学童クラブ＞ 未確定
- 資料2 放課後児童健全育成事業に関する「量の見込み」に関する調査の集計結果について
(情報提供)
- 資料3 学童クラブの量の見込みと確保策について(事務局提案)
- 資料4 学齡部会専門委員会(第2回及び第3回)検討内容について
- 資料5 墨田区次世代育成支援後期行動計画(施策の体系)及び子ども・子育て支援事業計画
構成
- 資料6 墨田区子ども・子育て支援事業計画(構成案)

出席者(敬称略)

委員

野原 健治(興望館館長)
服部 榮(社会福祉法人 雲柱社理事長)
野口 悦子(主任児童委員)
内田 淳(青少年委員協議会委員)
森 八一(青少年育成委員会連絡協議会副会長)
小菅 崇行(小菅株式会社代表取締役会長)
金子 里美(NTT 労働組合東京総支部執行委員)
須藤 太郎(八広小学校長)

< 欠席委員 >

松芳 保(小学校 PTA 協議会会長)
飯田 昌弘(中学校 PTA 連合会会長)
菊本 和仁(桜堤小学校長)
福田 三加代(公募)

< 傍聴 >

なし

管理職出席者

関口 芳正(子ども・子育て支援担当部長)、小倉 孝弘(子育て支援課長)、鈴木 一郎(子ども課長)、村田 里美(子育て支援総合センター館長)

事務局出席者

柿畑・黒岩(子ども課)、酒井(子ども支援課)、榊原、

事務局(株)地域総合計画研究所)

森井・佐々木

1 開会

委員	これより学齢ワーキンググループ（以下、WG）を開会する。 （これまでの学齢 WG の内容について簡単に説明）
----	---

2 議題

(1) 学童クラブの量の見込み・補正・確保策について

事務局 (地域研)	（資料 1～3 について説明）
委員	平成 26 年の高学年の実績値は 59 人だが、待機児童はどれくらいいるのか。
事務局	現在の学童クラブは小学 1～3 年までの募集であり、応募に対する待機児童の把握はできない状況にある。なお、高学年の利用者は特別な支援を必要とする子どもである。
委員	今後、高学年も利用可能となる際、量の見込みの数字と 5%とする数字には乖離があるが、その点はどうか疑問である。
委員	高学年の実態として、午後 4 時過ぎに帰ってくるが学童クラブは低学年でいっぱいのため、併設している児童館へランドセル預かりとして受け入れている。今後はそこで高学年を受け入れられるのではないか。
事務局	低学年は実態からしてこれくらいの数字だろう。低学年は学童クラブで過ごすのが良いだろうが、高学年になるにつれて、限られたスペースの学童クラブよりは、体育館や公園、広いスペースのある児童館で過ごした方がよいのではないか。親からすれば学童クラブに安心感があるだろうが、子どものことを考えていければと思う。
委員	小学 3 年生で籍はあっても、あまり来ない子どもはいるのか。
委員	塾や習い事があると学童クラブには来なくなるし、仲の良い子どもがいないと来ない。このニーズ調査は保護者の大人へ行った調査であるが、子どもの意向は入っていない。
委員	子どもにアンケートを取って、親との乖離を見れるとよい。
委員	乖離度利用で高学年は 927 人となっているが、事務局提案では 100 人となっている。その差の 827 人をどうするかだが、児童館での対応の他に何か考えられるか。
事務局	放課後子ども教室を含めて検討する必要があるが、基本的には児童館の利用を据えた方がよいと考えている。例えば、受付に名前を記入することで見守り、来なかった時には保護者へ連絡するなどできないかと考えている。
委員	保護者からすれば、学童が終わる 4 年生以降が心配である。
委員	高学年の要保護児童は学童クラブ、それ以外は児童館という考え方だが、今後、学童クラブで高学年を募集するのに矛盾があるのではないか。
事務局	運用は現在とほぼ同じで、特別な支援が必要な高学年の子どもを優先して学童クラブに入れているため、やり方はそれほど変わらない。
委員	高学年を対象にして募集したら増えるのではないか、その場合はどう対処するのか、募集をかけた時の高学年の反応はどうか、実際はどう考えられるか。
委員	3 年生の保護者の中には、4 年生が始まる直前の数日を心配する人もいる。そうした子どもには、自宅の鍵管理をできるまで預かるとしているし、3 年生の段階からそのような指導

	も学童クラブではしている。子どもたちは、学童クラブは嫌いではないが、もう大丈夫という子が多い。
委員	数字では出ているが、実経験から 827 人までにはいかないだろうと推測される。ただし、新たに始まるもののため、様子を見ようということはどうか。
委員	9 月になると 3 年生や 4 年生は大丈夫で、学童クラブに入りびたりにならず、友達と遊ぶようになる。夏休みくらいまでお願いしたいとするケースが多い。
委員	働いている親は心配であるし、高学年は預かってくれないのかという声に対して、きちんとした答えがないといけない。ただし、対策も考えられているため、それらを目に見えるような形になっていけばよい。
委員	保護者の心配を受け止めて、自立に向けたフォローをどのようにするかが見えればよい。見えないから心配なのである。
委員	何らかの窓口を設けて、児童館を案内するようなこともあり得るだろう。
委員	夏休みにおいて、児童館でランチサービスとして、弁当持参の子どもは児童館で食べ、そうでない子どもは自宅で食べてから再び児童館に来るように指導しているが、それがあまり知れ渡っていない。
委員	児童館のメニューについても具体的に示していく必要がある。
事務局	学齢 WG で提言してもらい、区でも考える必要はある。保護者のニーズとして出ている数字は、不安として出ているのだろう。そうした不安を解消する方法や、子どもの視点に立っての制度設計を考えた方がよい。その際、児童館で対応可能とすると児童館任せになるため、ランドセル預かり事業といった形で制度化する等、仕組みを作り、事業計画を立てれば、高学年への対応は区の責任としてやれるだろう。WG から提案してほしい。
委員	学童クラブで、3 年生から高学年へ移行する際、児童館へ行くような指導を子どもたちへしているのか。
委員	コミュニティクラブに誘い、児童館への案内をしてつなげている。
委員	そういった部分も明確化しないとけないのではないか。
委員	児童館でのメニューを具体化して不安を取り除くことや、4 年生や夏休みにどうするのか、学童クラブから児童館への移行に向けた PR など、今後、早めに WG で検討していきたい。専門委員会でも児童館について検討している。
委員	学童クラブに入っていない子どもたちは 6 割程度いるが、この子どもたちへの緊急対応や一時的な対応なども検討する必要はあるだろう。
委員	興望館でも民間として高学年を受け入れているが、高学年は友人関係や習い事などで分散していく。ただし、名前だけ置いておいて、イベント時に知らせてほしいというニーズもあり、その場合は特別会員となり、利用料も変えている。 高学年には多様なメニューが必要だろうし、事務局からもメニューの提示について言及があった。
委員	学童クラブへ子どもを預けなければいけない家庭もあり、経済的な問題もあるだろう。その家庭全体を支援していくことが重要だろうし、高学年になった時や保育園の時点から家庭で自活していくことを教えていく必要があるだろう。また、現在、約 60 人の高学年がいる中で、5 年後に 100 人とするのは妥当だろう。

委員	<p>量の見込みでは乖離度を用いること、高学年の要保護児童を5%にして100人とすること、児童クラブは北部に1室、南部に3室を新設すること、ただし、メニューの提示や保護者への周知など高学年への事業が宿題としてあることで、本日はよろしいか。</p> <p>(「はい」との声あり)</p>
----	--

(2) 専門委員会の進捗状況について

委員	(資料4)に基づき、これまでの専門委員会の内容と進捗状況について説明
事務局	<p>計画に掲載した事業は平成27年度から事業が開始されるため、区の予算に反映させていきたい。予算の時期と関連があるため、今後の親会議で骨子を示し、次の学齢WGで素案を示し、それぞれに情報提供しながら進めていきたい。</p>
委員	まだ議論が足りない感じはする。
委員	<p>これからはある程度、計画として形にしつつ、議論を継続することでいかがか。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>では、そのような形で進めていく。</p>

3 次回開催予定

委員	<p>今回は10月9日(木)の午後6時30分から区役所で行うこととする。今回は専門委員会から児童館のあり方と児童健全育成の考え方などについて案が出される。また、次世代育成行動計画の骨子案が出されるが、先に親会議で示され、学齢WGで確認しながら進めていく。</p>
事務局	<p>次世代育成行動計画はワークライフバランスが主であるが、それを墨田区としてどうするかも議論していただきたい。</p>
委員	<p>その点についても、どこかで議論したい。</p> <p>以上で、学齢WGを閉会する。</p>

以上